



ソウル国際観光展で自治体を PR !!

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 木下 祐也 (愛媛県派遣)

第 38 回ソウル国際観光展

クレアソウル事務所は、5月4日から7日までソウル特別市江南区の複合施設 COEX で開催された「第 38 回ソウル国際観光展」に出展しました。

当国際観光展は、38 年続く韓国最大規模の総合観光博覧会で、韓国自治体をはじめ、43 国から 284 ブースが出展し、日本の自治体からは、鳥取県、熊本県、長崎県が出展しました。また、星野リゾートやユニバーサルスタジオジャパンのブースもあり、日本関係のブースは近くに配置されて行われました。

旅行作家によるトークショーや、こどもの日に合わせたアニメキャラクターショーなど多様なプログラムが用意されており、4日間で5万 2,147 人が来場し、新型コロナウイルス感染症流行前の 2019 年以前と同程度の規模となっており、旅行への関心の高さがうかがえました。また、海外旅行への関心も高く、日本や東南アジアが人気の旅行先となっています。



開会式の様子

ソウル事務所ブースでの PR

クレアソウル事務所のブースでは、日本各地のポスターの掲示や観光パンフレットの配布による自治体 PR を行うとともに、ソウル事務所の Instagram「トランドラン」のフォローで、お酒やけん玉、ラムネ、お菓子が当たる抽選イベントを実施しました。また、来場者に楽しんでもらうと同時に、日本への関心や興味を持ってもらえるよう日本酒の試飲やけん玉チャレンジ、日本に関するクイズなどを実施しました。



1 等の日本酒（島根県・出雲富士）のプレゼント

日本酒の試飲は、韓国国内で流通している、クレア職員の派遣元自治体のお酒を、自治体や購入場所の紹介を行いながら 1 日 1 本限定で行いました。愛媛県の「石鎚」、島根県の「月山」、「出雲富士」、鳥取県の「千代むすび」を提供し、各日とも 15 分ほどで終了し、試飲された方からも美味しいとの声がほとんどで、日本酒のポテンシャルの高さを再認識しました。



日本酒の試飲の様子

韓国では、2019年度時に見られた日本製品不買の影響は、現在のところ見かけません。日本酒のみならず、日本のビールや日本食について韓国人の関心は高いように思えます。それは、2023年1～3月期の日本ビールの輸入額が、不買運動後最高の663万ドルとなったことからもうかがうことができます。

また、日本の地方空港と韓国仁川空港との直行便が再開し始めたこともあり、出展時点での直行便マップも準備しました。2022年度の国際観光展では、まだ直行便が少なかったこともあり、地方へのアクセスについて難しさを感じましたが、今回、パンフレットの配布と合わせて説明することでより具体的にPRすることができました。

来場者からは、「国際芸術祭が行われている直島の自治体（香川県）はどこ？」「〇〇のパンフレットはないのか？」といった、訪日旅行に関する意欲的な声が聞かれ、日本の人気の高さを肌で感じました。



パンフレットの説明を行う鹿児島県派遣職員

ブースへの集客を目的としたけん玉チャレンジでは、一人30秒以内に大皿以上に乗せられれば成功という中で、何回も挑戦してもうまく大皿に乗せられない人がいる一方、一回で大皿に乗せられる人がいるとみんなが歓声を上げるなど、盛り上がりを見せ、参加者に楽しんでもらうことができました。



けん玉チャレンジの様子

2023年度の地域魅力発信事業

クレアソウル事務所では、10月22日開催の「日韓交流おまつり」や11月9日から12日にかけて開催のトラベルショー、12月2日・3日に行われるAnime × Game Festival Korea 2023への出展を予定しております。

来場者によっては、先の来場者コメントでの「直島・国際芸術祭」もそうですが、何かキーワードを持っている方がおり、そうした方へのPRには、やはり自治体の皆様からご提供いただく資料が欠かせません。各イベントでは、日本の地域の魅力を発信できるようブース内容の充実化に力を入れていきますので、自治体の皆様のご協力をお願いします。



閉会式の様子